

JR東海労なごや

2024年2月23日 No1232
JR東海労名古屋地方本部
発行者：荻野隆一
編集者：教宣部

怪しい誘いにご用心！と題した怪しい掲示

批判にならない批判！私たちは労働組合だ

12月14日、私たちJR東海労にセントラルメンテナンスで働く新しい仲間が加わりました。早速セントラルメンテナンス労組から筋違いの怪しい情報が出されました。

そもそも彼はセントラルメンテナンス労組組合員ではありません。にもかかわらず、仲間を裏切ったかのような視点での批判は理解できません。唯一、私たちJR東海労を批判しているのは極左暴力集団なる表現がなされていますが、言葉自体もはや死語に近い時代錯誤の表現です。批判に対する答えは簡単です。「私たちは労働組合です。」真の労働組合と言っても過言ではないでしょう。組合員の利益のため会社の顔色を伺うことなく堂々と会社と交渉してきました。私たちは、JR東海会社の労働条件はもちろん、出向者の組合員が多くいる関連会社で働く者の利益のため取り組んできました。

確かに私たちは1%にも満たない

情報の中でただ一つ真実があるとすれば「組織率1%にも満たない」でしょう。確かに言う通りです。否定はしません。しかし、なぜそんな少ない労働組合に目くじらを立てるのでしょうか？それは、そこで働く者のために会社に対してもの申すからなのです。はっきりしているのは会社にとって、仲間のためにもものを申す社員が増えると不都合だからなのです。

誰がセントラルメンテナンスの労働条件を改善するのか

関連会社は労働条件の悪さに加えて、JR東海会社から天下った管理者から強権的な労務管理に、職場で働く社員は悲鳴を上げています。彼らは私たちJR東海労組合員に訴えてきます。同じ鉄道労働者としてこのような声を無視するわけにはいきません。私たちJR東海労はそのような声を出向者と共に団体交渉で職場環境改善などを実現しています。声を上げなければ何も変わらないということです。

私たちのような労働者のための運動を進める労働組合におびえるセントラルメンテナンス組合役員の皆さん、会社の声より組合員の声に耳を傾けるようお伝えします。

**セントラルメンテナンスで働くみなさん！
私たちは安心して働ける職場作りの道案内をお手伝いします。**